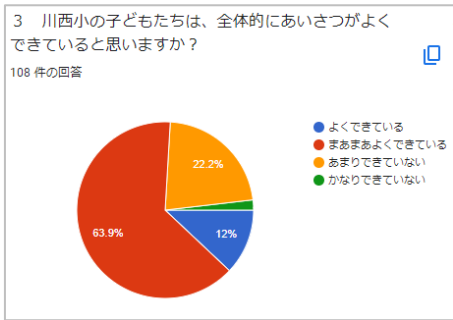
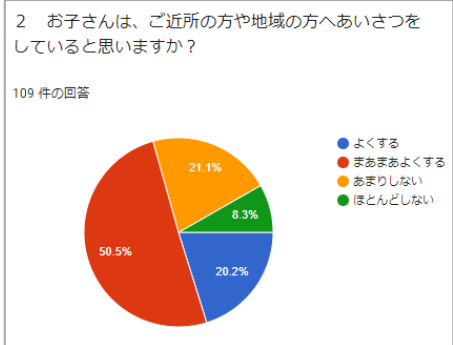


さわやかな あいさついっぱい 川西小

1学期に何人かの先生から「**子どもたちのあいさつの声が大きくなるようにしたい**」という思いを聞きました。保護者の皆様にアンケートを取ってみたところ、家庭や地域でのあいさつも高めていった方がよい状況であることが分かりました。そこで、2学期の始業式に校長から子どもたちに向けて「**2学期はあいさつを大事にしていこう**」という話をしました。関連して、職員会議では教務主任からは「**各学級であいさつについて考えていくとともに、大人からこれまで以上にあいさつをしていきましょう。**」という提案がありました。それから1か月。川西小のあいさつはどうなってきたでしょう。



なかよし委員会のみなさんが昇降口の中で**あいさつ運動の取組**をこれまでよりパワーアップしてやってくれていることもあり、靴を履き替えて校舎内に入ってくる子どもたちはみんな、大きな声で「おはようございます。」が言えています。一人じゃないので恥ずかしさありません。**声に出してあいさつすることがあたりまえ**になってきました。

教室に入る時も入口で「おはようございます。」とはっきり言える姿が増えました。教室で先に来た**仲間や学級担任がしっかり迎えてくれている**からでしょうか。

私は昇降口の外で子どもたちを迎えています。1学期はこちらから声をかけても軽く頭を下げる程度の子がたくさんいましたが、今は気持ちのよいあいさつを返してくれるのでうれしいです。子どもたちは南北両側から歩いてくるため、片方に気をとられて後ろが見えていないこともあります。そういう時は**子どもの方からあいさつをしてくれる**ことが増えました。

そこで、9月の校長講話の時間に次の課題を子どもたちに伝えました。「おはようございます」や「きょうなら」は、毎日の学校生活で決まった時間帯に、多くは決まった場所です。合格が見えてきたので、今度は**あいさつ中級コースの合格を目指そう**という話をしました。中級コースの課題は子どもたちの予想通り「**こんにちは**」です。

「こんにちは」は、その日に昼間になって初めて会う人がいた時にかかるあいさつの言葉です。「今日のご機嫌いかがですか?」「今日はいいお天気ですね」といった使い方が語源の「こんにちは」ですから、朝から何度も会っている教室の仲間には言いません。そういうわけで、学校では意外と使わない(練習できない)のが「こんにちは」です。でも、これが言えると下校時に地域の方とのあいさつが自然にできるようになることも期待できます。学校へおいでになるお客様、参観日などに来てくださるおうちのみなさん、そしてその日初めて会う隣のクラスやほかの学年の先生方、そういう方々に「こんにちは」のあいさつができるようになって、「中級コースも合格しよう」と呼びかけました。

すると、子どもたちは「こんにちは」を使いたくて心がうずうずするような様子になりました。使ってみたいけれどなかなか良いタイミングがないようです。やはり中級コースは簡単には合格になりません。

さらにまた1週間が経ちました。この日は学校運営協議会のみなさんに授業の様子を見ていただく日です。ということは…

「お客様が学校にいらっしゃる！」

朝から子どもたちはやる気満々でした。

その後、どのようなことが起きたかは皆様のご想像の通りです。子どもたちは純粋な心をもっています。気持ちよいあいさつをしようとする気持ちはあります。でも、子どもたちを取り巻く社会は昭和や平成前期のそれとは違います。意図的に取り組んでいくことが必要です。あいさつの心を育み、自信をもたせ、**周囲の方を笑顔にできる「あいさつ名人」がたくさん育つ**よう、これからも学校として取り組んでいこうと思います。

2学期は

だいじ

「あいさつ」を大事にしていこう。

しゅうかん

あいさつは、習慣になればふつうにできるよ。

なかま

あなたがすると、仲間もするようになるよ。

いえ

めいじん

まずは、**学校**と**家**で**あいさつ名人**になろう!